

◎救急医療についてもっと詳しく ～急患診療所の内科の対象は中学生以上～

【河合局長】

平日夜間は山陽小野田市急患診療所が内科系患者を診て、日曜日は宇部市休日・夜間救急診療所が内科系患者を診るといのが特徴です。

【長澤副会長】

宇部市は平日の夜間はやっていません。宇部の岐波の方から来られた患者もいます。「インターネットで調べたら山陽小野田市の急患診療所が開いていたから来ました」と言っていました。

【河合部長】

宇部市と連携を取るようになり、お互いにホームページで宣伝しあっている状況です。

【長澤副会長】

山陽小野田市の急患診療所の内科では、医師会の中で協議し、これまでは高校生以上を対象としていましたが、中学生くらいであれば診ることができるということで小児科の先生の了解をいただき、対象を中学生以上としています。



【河合部長】

消防には119番ではない他の電話番号がありますね。受診できる医療機関を探したいときは病院の問い合わせ番号に、こちらを使っていた方がいいですよ。

【山本署長】

そうですね。119番だと火災と救急の電話が重なってしまうので、宇部・山陽小野田消防局情報指令課の番号(☎21-2866)を使っていた方がいいです。全体を把握していますので、小野田消防署、山陽消防署に直接電話をかけるより対応が早いかなと思います。

◎かかりつけ医をもちましょう ～かかりつけ医は個人医療機関で～

【河合部長】

話は変わりましたが、かかりつけ医の話ですが、かかりつけ医が提唱されてかなりの時間が経っています。はたして、どのくらい根付いているのでしょうか。一次救急の使い分けで、個人医療機関をかかりつけ医として推奨してもらいたいと思っています。

【長澤副会長】

かかりつけ医は個人医療機関がなるのが一番です。近くのお医者さんだと何でも相談することができるはずですよ。

【河合局長】

かかりつけ医として個人医療機関を受診していることが、往診してもらうときに有効です。二次救急病院は入院患者の対応があり、往診することができないのです。

【山本署長】

市民のみなさんから考えれば、かかりつけ医というのは分かりづらいところがあります。どこの病院、診療所でも、日ごろからかかっていたら、そこがかかりつけという判断をされやすいのではないかと思うのです。

【長澤副会長】

欧米でいえば、家庭医みたいな感じです。どんな病気にかかっても、まずはかかりつけの個人医療機関にかかる。そこで診察を受け、必要ならそれぞれの専門科へ紹介していただくという方法です。

◎最後に ～救急医療の適正利用の啓発活動を～

【山本署長】

市民のみなさんが、急患診療所の存在を知っておられるかどうか問題です。さっき長澤副会長が言われた休日応急医は、長い歴史の中で運用されてきているから、結構浸透しているのです。やはり、急患診療所というのは、比べてはいけなかもしれないかもしれませんが、歴史がまだ浅いので、果たしてみなさんがご存じかどうかが一番ポイントだと思うのです。

【河合局長】

啓発活動という点では、広報「さんようおのだ」1月15日号に掲載された「市長から市民のみなさんへ」の文章は効果的でした。あのおかげで市民病院も、電話での問い合わせの場合は、まず急患診療所に行ってくださいと言えるようになりましたし、市民のみなさんにも了解してもらいやすいのです。



【山本署長】

消防も救急車の適正利用について啓発活動を行っているところです。広域消防となって4年目になりますが、消防が住民と接するいろいろな場を捕まえて、そういった啓発活動等を行っているおかげで、軽症者の救急車の適正利用に関しては、数値的には若干改善に向かっているのが現状です。

【河合部長】

行政としては、急患診療所の啓発活動に、今後とも一層努めていきますので、ご協力をお願いします。消防も適正な救急車の使い方等、引き続き啓発活動をお願いします。